

【学校教育目標】

人間性豊かで、主体的に生きるたくましい児童の育成

【本校の課題】

- ・ 体力テストの「立ち幅跳び」と「ソフトボール投げ」では、6学年中4学年で全国平均を上回っているが、「長座体前屈」は6学年中男子5学年女子3学年で県平均を下回り、「20mシャトルラン」では男女とも4学年で県平均を下回っている。
- ・ どの学年でも、運動を積極的に行う児童とそうでない児童の2極化が見られる。
- ・ 休み時間の遊びがやや固定化しており、多様な遊びができていない。

【現状】

休み時間は、外で遊ぶ児童が多いが、遊びの種類は学年によって偏りが見られる。低学年は、おにごっこや遊具遊びが多く、中学年・高学年はドッジボールやサッカーが中心となっている。その一方で、休み時間に教室などで過ごし、外に出ない児童も少なくない。

週に1度全校体育の時間を取って、短縄跳び・長縄跳び・持久走を中心に運動を行っているが、運動量としては、まだまだ不十分である。

ここ数年継続して、器械運動の専門の指導者を招へいし、指導してもらうことにより、跳び箱運動への意欲は高まってきている。

## 取り組み

### 個人のできる運動の奨励

コロナウイルス感染症対策のため、縄跳びやストレッチなどの個人のできる運動を奨励する。そのために、縄跳び、持久走、ストレッチなどのチャレンジカードを配布したり、テレビで簡単な運動を紹介したりすることで、運動に取り組むきっかけとする。

### 運動しやすい環境づくり

安全・運動委員会の活動として、運動場に広めのドッジボールコートや常設したり、縄跳びボードを常設したりすることで、運動に取り組むしやすい環境をつくる。

また、苦手な児童のために、柔らかいドッジボールを各クラスに配布して、遊ぶ児童を増やす。

### 体育授業の改善

教員研修で、コロナウイルス感染症対策を意識しながらの運動量の確保、学習課題、振り返り、ICT活用などの視点から、授業改善を図る。また、体育授業の中での体力づくりタイムとして、筋力、敏捷性、全身持久力のアップにつながる運動を例示し、実施できるようにする。

【目標】

- ・ 体力テストの結果において、全学年の全ての項目で、昨年以上の記録を目指す。
- ・ 個人のできる運動の推奨により、進んで体を動かす習慣がつくようにする。
- ・ 体育の授業において、しっかり体を動かして体力をつけるとともに、目標を持ち、励まし合いながら活動し、振り返りを行う学習スタイルを身につける。